

安倍日本国総理大臣閣下のコートジボワール訪問における共同声明

安倍晋三日本国総理大臣閣下は、2014年1月10日から1月11日の間、コートジボワール共和国を訪問した。

アラサン・ウワタラ・コートジボワール共和国大統領閣下は、日本国総理大臣の仏語圏西アフリカ初訪問となる安倍総理のコートジボワール訪問を温かく歓迎した。本訪問は、コートジボワール日本大使館開設50周年の年に行われた。

安倍総理はコートジボワールの有名なホスピタリティに厚く謝意を表明し、コートジボワール元首との会談が友好的な雰囲気の中で行われたことを歓迎した。

ウワタラ大統領は、日本がとりわけTICADプロセスを通じて、長期にわたりアフリカ開発における主導的役割を果たしてきていること、及びコートジボワールの発展に対してJICA等を通じ日本政府が多大な支援を行ってきていることに大いに謝意を表明した。

安倍総理は、2013年6月に日本の横浜にて行われた第五回アフリカ開発会議（TICADV）及び日・アフリカ地域経済共同体（RECs）議長国首脳会合へのウワタラ大統領の積極的な参加に謝意を表明した。

同時に、安倍総理は、コートジボワールの政治危機を乗り越え民主主義を定着させ、年10%近い経済成長を実現している、ウワタラ大統領の指導力を賞賛した。

両首脳は、平和と安定の実現が経済成長につながると同時に、経済成長が平和と安定をもたらすこと、また、民間の貿易・投資がアフリカの経済成長を促進するというTICADVでの議論を再確認した。

この観点から、両首脳は、西アフリカの玄関口・経済牽引役としての潜在性を有するコートジボワールが、安定と経済成長の好循環を実現し貿易・投資を呼び込む好例となるための方策につき議論した。また、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）議長であるウワタラ大統領と安倍総理は、西アフリカ地域に安定と成長をもたらす方策についても議論した。

平和と安定に関し、両首脳は、平和と安定の保証のために「人間の安全保障」が重要であるとのビジョンを共有した。

ウワタラ大統領は、民主主義・グッドガバナンスを恒久的に確立させるとともに、武装解除・動員解除・再統合（DDR）や治安部門改革（SSR）による平和と安定を促進する意思を表明した。また、土地問題の解決、公正な富の再分配、国民和解への取り組みを再確認した。

安倍総理は、平和と安定及び国民和解のために取り組むウワタラ大統領の努力を賞賛した。この関連で、安倍総理は、2013年12月にコートジボワールと日本の間での食糧援助に関する交換公文の署名に言及しつつ、女性の活力も活かした同国の一層の平和と安定の促進に向け、770万ドルの新規支援を行うことを検討している旨を表明した。この支援の中には、とりわけ、同国のDDR支援、脆弱層への緊急支援、農村開発公社（ANADER）と協力した女性の自立支援が含まれる。また、安倍総理は、治安の継続的な維持のため、警察官の能力強化を支援する予定であるとともに、公正な富の再分配に向けて中部・北部の公共サービス改善に係る人材育成支援を行っていること、また、若者の職業訓練支援を通じて既に1千人以上のコートジボワールの若者の職業能力向上が行われていることを強調した。

経済成長・投資環境整備に関し、両首脳は、二国間貿易及び投資の活性化の重要性につき一致した。その観点から、両首脳は、TICADVの際に安倍総理がウワタラ大統領に対して約した、コートジボワールへの日本の貿易・投資促進官民合同ミッション派遣が2013年12月に実現したことを歓迎した。

また、ウワタラ大統領は、日本企業の貿易・投資がコートジボワールの経済成長に貢献することを再確認した。また、ウワタラ大統領は、コートジボワールの新投資法が、日本企業も含む国際企業にとって、治安も含めたビジネス環境の改善を促進することに言及した。

現地雇用の創出につながる日本企業の一層のコートジボワールへの進出に向け、安倍総理は、投資促進、産業人材育成・産業振興、インフラ整備を含む支援の本格的再開を表明した。

とりわけ、投資促進政策アドバイザー派遣、「ABE イニシアティブ」を通じた産業人材育成、実施中のアビジャン圏都市整備計画策定プロジェクトの内容を踏まえたソリブラ交差点の高架橋建設に関する協力準備調査の実施、コートジボワールの重要な経済拠点としての潜在性を活かすための西アフリカ成長リング構想に関するマスタープラン策定及びこれを踏まえたアビジャン港の整備に関する検討を行うことを表明した。

また、コートジボワールの成長を牽引する産業の振興のため、成長の潜在力を有する国産米の振興に関するプロジェクト、及び有望産業の振興支援プロジェクトを実施することを表明した。

西アフリカの安定と開発に関し、両首脳は、サヘル地域における諸課題への対処とともに、西アフリカ地域の開発への取組が重要であるとの認識で一致した。

ウワタラ大統領は、ECOWAS 現議長として、サヘル地域におけるテロとの闘いを引き続き推進し、民主主義及びグッドガバナンスの定着を含む西アフリカの平和と安定のための取組を一層強化することを表明した。また、西アフリカが域外国にとって魅力的な市場となるよう、経済統合の促進に向けて域内関係国と協力を強化することを表明した。

安倍総理は、ECOWAS 現議長としてのウワタラ大統領の指導力を賞賛しつつ、T I C A D Vの際に表明したサヘル地域への支援の一環として、3月末までに8340万ドルの難民・避難民支援、帰還支援を中心とした人道支援を行うことを検討していること、コートジボワール及びサヘル諸国を中心に法執行に携わる人材育成を支援することに言及した。また、安倍総理は、サヘル諸国との対話枠組み強化のため同地域関係者を日本に招へいする考えであることを表明した。また、安倍総理は、西アフリカの経済統合の進展を支援するため西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）に対するインフラや税関分野の専門家派遣による協力を強調しつつ、西アフリカの成長に向け、人材育成や貧困削減支援を引き続き行うことを表明した。

ECOWAS 議長であるウワタラ大統領及び安倍総理は、西アフリカ地域に安定と発展をもたらすための方策について言及した。

この観点から、安倍総理は、日本の安全保障並びに地域及び世界の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献するとの、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の下、行っている最近の取組につき説明を行った。

ウワタラ大統領は、地域及び世界の平和と安定に貢献する日本の活動への支持を表明するとともに、世界で広く知られている日本の平和国家としての活動及び決意を賞賛した。

国際場裡における協力に関し、両首脳は、国連創設70周年となる2015年を見通し、常任・非常任理事国双方の拡大を含む安保理改革で具体的な成果が得られるよう協力していくことで一致した。また、両首脳は、拡大後はアフリカが常任・非常任の双方で代表されるべきであるとの考えを強調した。

両首脳は、森林保全といった、自然環境保護の重要性につき一致し、バンコの森を始め

とするコートジボワールの森林保全における日本の支援が行われていることを歓迎した。

両首脳は、科学に基づく資源の持続可能な利用推進の観点から、ワシントン条約締約国会議や国際捕鯨委員会での協力を確認した。

ウワタラ大統領は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定に対し、改めて安倍総理に対し祝意を表明した。安倍総理は、コートジボワールで柔道のような日本のスポーツが活発に行われていることを歓迎し、両国間の友好関係の一層の促進に向けて、「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムを通じたコートジボワールのスポーツ振興を支援する日本の意図を表明した。その一環として、安倍総理は、国内関連団体の協力を得て、コートジボワール側に柔道着100着を供与するとともに、指導者の招へいを行うことを表明した。両首脳は、ブラジルでの2014年サッカーワールドカップに両国の代表チームが出場することを相互に讃え、スポーツ・文化面における両国間の交流を促進していくことを確認した。

両国間関係の強化に向けた方策として、両首脳は、今次訪問の機会に確認された互恵的な関係を一層強化するため、両国間の協議を引き続き様々なレベルで行っていくことで一致した。

(了)